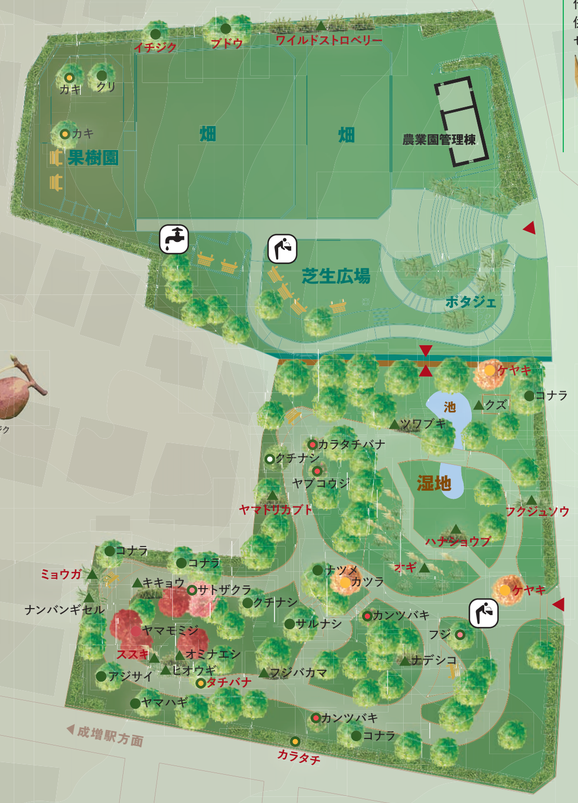
板橋区立 赤塚植物園

【凡例】
●──木本（樹木）　▲──草本
●●──紅葉樹／黄葉樹
●●●●──花・実がみどころの樹木
赤字の植物名──周囲に解説アリ



農業園

板橋にもかつて広がっていた畑の風景を、少しだけ思い出させる場所です。子供達が農業体験を通じて土に親しめる畑の周りを果樹が囲みます。入口周辺のボタジェ（展示・観賞用の畑）に植えられるのはみな野菜。食べるところしか知らない野菜の本当の姿をぜひご覧ください。

●**イチジク**（クワ科）［開花4月／結実9月］春に花が袋に入った花嚢ができ、それが秋に果嚢として熟す。花が無いように見えるので無花果と書く。
▲**ワイルドストロベリー**（バラ科）［開花5月／結実6月］和名エゾヘビイチゴ。野生種のイチゴで、現在食べているイチゴのルーツ「オランダイチゴ」が出回るまでは広く栽培されていた。
●**ブドウ**（ブドウ科）［開花6月／結実10月］古くから栽培され、品種が多岐にわたる。

イチジク　ブドウ

万葉・薬用園

日本に古来からある植物、日本文化と深い関係のある植物を集めました。万葉集に詠われている植物の多くはここで見ることが出来ます。日本に自生する薬用植物も含まれています。たびたび耳にする植物の実際の姿をご覧ください。

▲**ハナショウブ**（アヤメ科）［開花5月下旬～6月下旬］／ハナショウブの園芸品種。湿地に生える。アヤメ、カキツバタ、ノハナショウブがアヤメ科に属する。
▲**オギ**（イネ科）［開花9～10月］イラスト面参照
▲**ススキ**（イネ科）［開花8月中旬～10月中旬］茅（かや）ともいう。茅葺き屋根の材料。オギに似ているが、オギは穂にノギという棘が無く、水辺近くに地下茎で広がるのに対し、ススキの穂にはノギがあり、株立ちで群生する。
●**タチバナ**（ミカン科）［開花4月下旬～5月上旬 ／結実11～12月］イラスト面参照
▲**ミョウガ**（ショウガ科）［開花／7月］イラスト面参照
▲**フクジュソウ**（キンポウゲ科）［開花1月下旬～3月上旬］花は日が当たると開き、陰なると閉じる。
▲**ヤマトリカブト**（キンポウゲ科）［開花8～10月］日本三大有毒植物の1つ。塊根に毒がある。花は鳥兜に似る。

ハナショウブ　オギ　タチバナ　ミョウガ　ヤマトリカブト

Ⓐ日本庭園

門の向こうに竹林があります。モウソウチク、マダケなど竹各種が見られる他、ユズリハ、ヒサカキなど縁起物、お供え物など日本文化に通じるものが寄せられています。

●**キンメイモウソウ**（イネ科）中国の江南地方から渡来したモウソウチクの園芸品種。桿は黄金色で、緑色の縦縞が入る。

キンメイモウソウ

●**クロチク**（イネ科）春に芽を出してからしばらくは緑色だが、夏を過ぎると徐々に黒くなり、2年ほど経つと真っ黒に変化する。伐採後もそのままの黒色を保つので、建材や工芸材に使われる。開花は60～120年周期
●**ハゼノキ**（ウルシ科）［開花5月下旬］イラスト面参照

ハゼノキ

Ⓑ四季の道・春夏

道の左右に、花や実のみどころが春夏のものを植栽しています。

●**ミツマタ**（ジンチョウゲ科）［開花3月上旬～下旬］イラスト面参照
●**シュンラン**（ラン科）［開花3月中旬～4月上旬］葉が多く2列に扇状に出る。早春根ぎわから一茎一花をつける。唇弁にはん点があり、別名ホクロ。
●**ナツメ**（クロウメモドキ科）［開花6月上旬～下旬／結実9月］葉腋に小さな黄色い5弁花をつけ、果実は食用。芽ぶくのが遅く初夏になるので夏芽の名がつけられた。
●**アケビ**（アケビ科）［開花4月上旬～下旬］野山に見られる落葉のつる植物。実は食べられる。

ミツマタ　シュンラン　ナツメ

Ⓒボタン園

春に正面口から右手園路をゆくと、奥で大輪の花を付けているのがボタンです。その豪華さから百花の王といわれます。園では数種のボタンを栽培。見比べてください。

●**ボタン**（ボタン科）［開花4月中旬～下旬］中国原産で奈良時代に日本に渡り、多くの園芸種が作られた。新しい枝先に1つ花をつける。樹木で年々大きくなるが、同じボタン科のシャクヤクは多年草。

ボタン

Ⓓバラ園

前にバラ、奥に藤棚があります。藤棚の木陰にはベンチがあって、一休みできるエリアです。藤棚の奥に、この園の注目の植物「シモバシラ」と「ハンカチノキ」があるのでお見逃しなく。

●**バラ**（バラ科）［開花5月／10月中旬～11月中旬］つるバラと、ブッシュローズの中でも、四季咲き大輪性のハイブリット・ティーと四季咲中輪性のフロリバンダを栽培。
●**ハンカチノキ**（ミズキ科）［開花4月中旬～下旬］中国南西部原産の珍しい落葉樹。白いハンカチのような総苞が2つ付く。総苞は徐々に伸び、長さは6～15cm程度になる。
▲**シモバシラ**（シソ科）［開花9月中旬～10月中旬／着氷最低気温0度以下の日］イラスト面参照

バラ　ハンカチノキ

本園

Ⓔつづら折りの道

四季の道からケヤキ広場へ上がる、つづら折りの斜路です。花や実を楽しめる、落葉広葉樹が見られます。

●**ムクロジ**（ムクロジ科）［開花6月上旬～下旬／結実11～3月］種子を正月の羽根つきの羽根の球につかう。果皮は水で溶くとシャボンになり、石鹸代わりになった。
●**センダン**（センダン科）［開花5月中旬］淡紫色の小花を多数つける。果実は丸く黄色くに熟し落葉後に残る。実は薬用。
●**ハナノキ**（ムクロジ科）［開花3月上旬～4月上旬］葉に先立って真紅色の花をつけ、遠目に木全体が赤く見える。秋の紅葉も美しい。
●**ヒマラヤザクラ**（バラ科）［開花11～12月］冬に花が咲くサクラ。ヒマラヤ原産。

ムクロジ　ハナノキ

Ⓕ野草の道

さまざまな野草が見られる小山の小径です。種が飛んでたびたび場所を変える多年草もあり。毎年新たな発見があるエリアです。

▲**シモバシラ**（シソ科）［開花9月中旬～10月中旬／着氷最低気温0度以下の日］イラスト面参照
▲**ミスミソウ**（雪割草）（キンポウゲ科）［開花2～3月］白・紫・ピンクなど個体で花の色が違う。雪の下でも常緑で、早春に残雪を割るように花を咲かせることから雪割草ともいわれる。ただし別の植物で正式名ユキワリソウ（サクラソウ科）がある。
▲**キジョラン**（ガガイモ科）［開花7月／結実11月］イラスト面参照
▲**ムサシアブミ**（サトイモ科）［開花4月上旬～下旬／結実12月］花の形が馬具の鐙（あぶみ）に似ている。赤い粒状の実がたくさん成る。

ミスミソウ　キジョラン

Ⓖ武蔵野の木

赤塚植物園の敷地は、元武蔵野の雑木林。そのときに生えていた樹木が一部保存されているエリア。雑木林で見られる多くの下草も植栽。板橋の区花「ニリンソウ」はここにあります。

●**シラカシ**（ブナ科）［開花4月］材は硬く、良質な用材になる。秋にはドングリが実る。
●**コナラ**（ブナ科）［開花4月上旬／結実10月］武蔵野の雑木林に多く見られる。秋にはドングリが実る。
▲**ニリンソウ**（キンポウゲ科）［開花3月下旬～4月中旬］イラスト面参照
▲**キチジョウソウ**（キジカクシ科）［開花10月中旬～11月中旬］家に植えておいて花が咲くと縁起がよいといわれるので、吉祥草の名がある。
▲**カタクリ**（ユリ科）［開花3月中旬～下旬］2枚の葉の間から花茎を伸ばし紫紅色の花をつける。地中深くの鱗茎からかたくり粉がとれる。

コナラ　ニリンソウ

Ⓗ針葉樹の森

建材に使われるスギ、サワラ、松ぼっくりができる各種松の木など、広い斜面に針葉樹が多種集まっています。

●**ヒマラヤスギ**（マツ科）［開花10～11月］高木で時には60mに成長するものも。実は種子鱗片が飛んだ後の先端が、バラに似た松ぼっくりのシダーローズになる。
●**ダイオウショウ**（マツ科）1本の葉が20-30センチもある巨大松。生け花にもよく使われる。
●**コウヤマキ**（コウヤマキ科）［開花4月下旬］ホンマキと言われ建材としても使用される。高野山では仏に捧げる木としても有名。隣のイヌマキはマキ科。庭木としてよく植栽される。
●**ナギ**（マキ科）［開花5月下旬／結実12月］神社でしばしば植えられている。葉が切れにくくカップルが別れないとされる縁起物。
●**カヤ**（イチイ科）［開花4～5月］木は緻密で芳香を放つ。碁盤、将棋盤の材料。葉先は鋭く尖る。ホンガヤとも呼ばれる。種を炒って食べたり、実から油をとって利用できる。実が苦く食用にならないので頭にイヌがつけられた。

シダーローズ　コウヤマキ　ナギ

Ⓙツバキの園

四季の道への階段両脇で見られるのがツバキの園芸品種などです。

●**ツバキ**（ツバキ科）［開花12月下旬～3月下旬］イラスト面参照
▲**シャガ**（アヤメ科）［開花4月］ツバキの園の下草として群生。花は朝開花して、夕方には萎む。

シャガ　ツバキ

Ⓚ四季の道・秋冬

道の左右に、花や実のみどころが秋冬のものを植栽しています。

●**チャノキ**（ツバキ科）［開花9月下旬～11月上旬／結実翌年9月］春の新芽を摘んで茶に加工する。晩秋に白い花が咲く。果実は翌年の秋に成熟して、花と実の両方が見られる。
●**ヒイラギ**（モクセイ科）［開花11月／結実翌年春～夏］節分にヒイラギの葉のついた枝と鰯の頭を串にさして戸口にさす風習がある。花はキンモクセイに似た香りがある。実は黒紫色。
●**シナヒイラギ**（モチノキ科）［開花4月中旬／結実11～12月］中国原産。実は赤く、クリスマスの装飾に使われ、チャイニーズ・ホーリーとも言われる。ヨーロッパ原産のセイヨウヒイラギも同じく実が赤く、クリスマスの装飾に使われる。
●**キンモクセイ**（モクセイ科）［開花9月下旬～10月中旬］中秋に濃いオレンジの花を咲かせ、冬の訪れを想起させる強い芳香を放つ。
●**フウ（フウ科）**［開花3月下旬～4月上旬／結実11～12月］葉は手のひら状に3裂。秋に紅葉する。隣のモミジバフウの葉は手のひら状に5裂、モミジ状。

ヒイラギ　キンモクセイ　フウ

Ⓛ果樹園

カキ、クリ、ビワ、アンズ、ブドウ、ナツミカン、キンカン、イチジクなどお馴染みの果樹が集まっています。

●**ビワ**（バラ科）［開花11月下旬～12月下旬］寒い時期に花をつけ、5～6月、実が熟す。
●**キンカン**（ミカン科）［開花 7月／結実10～11月］果皮のまま甘露煮や、薬用に用いられる。
●**ブラックベリー**（バラ科）［開花5月下旬～6月／結実7～8月上旬］果実は生のまま食べられるが、ジャムなどに加工されることが多い。
●**カラタチ**（ミカン科）［開花4月上旬／結実10月］童謡「からたちの花」でお馴染み。秋には直径3cmほどの丸い果実をつける。果実は短毛に覆われていて、ミカンのような光沢はない。

キンカン　ブラックベリー　カラタチ

Ⓜ香りの道

道の東側には花の香りが強い木が並んでいます。どの香りがどの木から漂ってくるのか、見つけてみてください。

●**ロウバイ**（ロウバイ科）［開花1月上旬～2月下旬］半透明で艶のある蝋細工のような黄色の花が咲く。花は内側が暗紫色で外側が黄色。蕾が鳥に食べられてしまうので網を張って管理。
●**ソシンロウバイ**（ロウバイ科）［開花1月上旬～2月下旬］イラスト面参照
●**ジンチョウゲ**（ジンチョウゲ科）［開花3月］冬から枝先につぼみがかたまってつく。早春に赤いガクの先が4裂して白い花を開き、ほころぶとよい香りがひろがる。
●**タラヨウ**（モチノキ科）［開花4月中旬～下旬］葉のウラに細い棒などで文字を書くと、次第に黒く浮き出てくる。葉書の語源にもなっているという。

ソシンロウバイ　ジンチョウゲ

Ⓝサクラの園

ヤマザクラをはじめ、オオシマザクラ、ソメイヨシノ、サトザクラなどさまざまな桜を集めた桜の園。下草にニホンズイセンが群生し、道脇にはセンリョウ、マンリョウも見られます。

●**ヤマザクラ**（バラ科）［開花3月下旬～4月中旬］サクラの種類は、園芸品種を加えると数百。そのうちヤマザクラは最も気品に富み、赤褐色の新葉と花とが同時に出て美しい。古くはサクラといえばヤマザクラをさしていた。
●**センリョウ**（センリョウ科）［開花6月中旬～7月上旬／結実12～1月］千両。正月の縁起物。マンリョウと似ているがこちらは葉の上に実があるのが特徴。実が付いたまま越冬し、春実が落ちて周りの果皮が無くなって初めて発芽する。
●**マンリョウ**（サクラソウ科）［開花7月／結実12～2月］万両。正月の縁起物。赤い実が葉の下につく。万葉園に植栽されているサクラソウ科のカラタチバナを百両、ヤブコウジを十両、アカネ科のアリドオシを一両ともいう。いずれも似たような赤い実が成る。

ヤマザクラ　センリョウ　マンリョウ